

糖尿病治療における地域医療連携状況調査実施要項

1 目的

北海道では、地域の医療連携体制構築を図り、切れ目のない医療を提供するためのツールとして地域連携クリティカルパスの導入を進めている。

今回、道内の糖尿病医療連携における現状及び地域連携クリティカルパスの運用状況を把握し、北海道医療計画の評価及び今後の推進方策を検討するため、本調査を行う。

なお、本調査は、平成 24 年度、平成 29 年度にも実施しており、比較評価を行う。

地域連携クリティカルパス：共通の様式を用いて、糖尿病患者の診療情報や治療計画を多機関・多職種（糖尿病専門医、かかりつけ内科医、眼科医、歯科医師、看護師、保健師、管理栄養士等）間で共有・連携しながら、糖尿病の重症化予防、合併症予防を目指すツール

2 対象機関

北海道医療計画において「糖尿病の医療機能を担う医療機関」として公表している医療機関

公表基準	①インスリン療法を行うことができること。 ②糖尿病患者教育（食事療法・運動療法・自己血糖測定）を行うことができること。 ③糖尿病による合併症に対する継続的な管理及び指導を行うことができること。
------	--

3 調査期間

令和 4 年 3 月～4 月

4 配布及び回収方法

- 北海道医療計画における医療機関名の公表に関する調査（毎年 4 月 1 日現在）と合わせて、各圏域の道立保健所で圏域内該当医療機関に調査用紙を郵送、回収を行い、集約結果を地域保健課がん対策係に送付する。
- 札幌市、旭川市、小樽市、函館市については、地域保健課から直接郵送し、集約する。

5 調査項目

属性	○医療機関名（担当者名、診療科名） ○有床・無床の別 ○有床の場合に教育入院対応有無
医療連携に関すること	○糖尿病における病診連携、病病連携の状況 ○連携の目的（専門的な検査、専門的な治療、合併症治療、患者教育、他） ○連携先医療機関（診療科）
糖尿病地域連携クリティカルパスに関すること	○地域連携クリティカルパスを活用している医療機関のみ 地域連携クリティカルパスにより連携している医療機関（診療科） ○地域連携クリティカルパスを活用していない医療機関のみ 地域連携クリティカルパスを活用していない理由
連携等における課題	○地域連携クリティカルパス活用を進める上での課題（自由記載）

※注「糖尿病連携手帳」について

日本糖尿病協会が、糖尿病健康手帳を地域連携パスとして利用可能な手帳として、平成 22 年 8 月に改訂し、発行。その後、平成 26 年 6 月に第 2 版、平成 28 年 2 月に第 3 版、令和 2 年 4 月に第 4 版が発行され、診療場面で広く活用されている。

6 集計結果分析

地域保健課で分析し、結果を北海道総合保健医療協議会地域保健専門委員会糖尿病対策小委員会に報告し、今後の施策等を検討する際の参考とする。

なお、分析結果については、各圏域保健所に提供する。